

## 国際交流 ひろば



約2年間にわたり鳥取市国際交流員として活躍されたビルギット・リンクさんが、このたびドイツに帰国されることになりました。

今回は、リンクさんからみなさんへのお別れメッセージを紹介します。

### 文化は違ってても

私が留学生として初めて日本へ来た時、自然環境や生活習慣の違いに驚き、戸惑ったことを今でもよく覚えていますが、日本の生活に慣れてくると



砂丘一斉清掃にも参加しました(写真左)

当たり前のことなのですが、「文化は違っててもここに住んでいても、みんな同じ人間なんだ」と感じるようになりました。それからの日本での生活はとても楽しいものとなりました。

共通点があり、文化の違いが多いから面白い！これこそが国際交流の基礎だと思います。鳥取市とハーナウ市との交流は「おもちゃ」という共通点からスタートし、現在はお互いの異なった文化も紹介し合う幅広いものとなりました。

国際交流は、市民と行政の協力があって一番良い結果が生まれると思います。

## 世界はひとつ！ アウフ・ヴィーダーゼーン！

ます。行政だけだと、なぜ交流するのか市民は理解しにくいのですが、市民が行政のサポートを得ることでイベントを実施することや、交流活動を普及することも容易になります。鳥取市とハーナウ市の交流は、始めから市民と行政の協力がありました。そして今では、わらべ館とヘッセン人形博物館の姉妹館交流のほか、両市の市民クラブや学校、幼稚園など交流がとて

も活発になっています。そして、両市は今年秋、正式に姉妹都市提携を結ぶ予定です。今後も両市が素晴らしい姉妹都市交流を行うためにみなさんのサポートが必要です。

国際理解を深めるために、他の国の生活を実際に体験することは重要で、これまで鳥取市はいろいろな体験型の交流事業を行っています。三年前にはハーナウ市市民大学訪日団が、鳥取市でホームステイを行い、鳥取市からは青年海外研修事業により、ハーナウ市でこれまで三回もホームステイしています。私も昨年、この研修団員と一緒にハーナウ市を訪問し、

改めて自分の国の文化を違った視点で体験することができ、いい経験になりました。

現在、世界はだんだん一つになってきて、環境問題など大切な問題はやはり各国が協力して解決するべきだと考えられています。そのためには、市民一人ひとりが相互理解を深め、国際的な考え方を身に付けることが必要不可欠だと思います。

### おわりに

振り返ってみると、私の鳥取市での生活や国際交流員としての仕事はとても楽しいものでした。このたび帰国することになり、悲しい気持ちと楽しい思い出が入り混じり、複雑な心境です。鳥取での生活は何物にも替えがたいとても大切な経験でした。ドイツに帰国してからもこの経験を活かし、日本とドイツの交流がよりよいものになるよう頑張りたいと思っています。

最後になりましたが、この二年間いろいろな場面で私を励まし、支えていただいた多くのみなさん、そして私の文章を辛抱強く読んでいただいた市民のみなさんに心より感謝します。

アウフ・ヴィーダーゼーン！

【また会いましょうー】